

- 1 派遣期日 平成23年10月28日（金）
- 2 研修先 会場名 愛知県蒲郡市民会館
所在地 愛知県蒲郡市栄町3-30

3 研修内容

愛知県事務職員研究大会

テーマ 「アクション！子どもたちの笑顔 つなげる明日へ」

全体会：『地方分権と教育委員会・学校』 講師 兵庫教育大学大学院教授 日渡 円

○今後の地方教育行政の在り方

学校の自主性・自立性を確立するために行うべきこととして、学校裁量権限の拡大や教職員の資質向上、教育委員会との連携や地域支援等のマネジメントが必要とされている。しかし、どの学校においても過去からの流れを大きく変えずに運営方法や目標の設定を行っている傾向が見られる。（学校の中だけで考えが確立してしまっている。）

「学校」を変えるためには、事務職員が法律や会計を扱う立場として、学校運営や目標の設定、予算の執行に対して積極的に発言・行動をしていく必要があるが、それを行えるような学校にすることも課題の1つである。

分科会：『“学校事務新時代 今、名古屋が変わる”

ー進化（深化）する組織とシステムー』

○学校間連携と学校事務支援センター

現在名古屋の抱える課題として、「大量退職と新規採用者の人材育成」が挙げられる。名古屋市内には約30校の複数配置校があり、新規採用者は原則複数配置校に配属されるが、毎年採用者が増え続けているため1年で別の単数配置校へ異動しなければならない状況が続いている。

これにより、学校事務の安定性が失われ適正な事務処理が行えないことから、平成20年に人材育成や情報交換・事務の集中処理を目的とした学校間連携が開始された。平成22年度に市内24ブロックの全校で学校間連携が実施されたが、各ブロック内で解決できない問題が多々挙げられ、平成23年より学校事務の円滑かつ適正な運営をはかるため学校間連携に続き学校事務支援センターが設置された。

学校事務支援センターの主な業務内容は、①経理・管財事務の集約化 ②手引きの電子化や事務作業効率化のための情報発信 ③新規採用者の研修会講師や採用2年目職員への訪問サポート ④学校間連携に関する事務手続きなどを行っている。

まだ設置して間もないが、主として行う業務以外にも各学校間連携ブロックで挙げられる問題を解決に導き、各連携校・拠点校・教育委員会それぞれの架け橋になるよう期待されている。

4 感想

全体会についてはこれからの学校の在り方、事務職員がこれからどのように学校運営に関わる必要があるか挙げられたが、事務職員として運営に関わることの難しさも感じた。今まであまり運営自体を考えることがなかったため、少しでも考えるきっかけが作れて良かったと思う。

分科会では新規採用者に対する支援と学校間連携が挙げられたが、学校間連携は日立市における共同実施と同じようなものである。

しかし、名古屋市と同じように複数配置校への採用や市内全体による共同実施の連携などはまだ進んでなく、新採者に対しての支援はまだ充分とはいえない。

今後の課題は日立市全体としての連携を強くすること、また新採や経験の浅い人に対する支援及びそれを行う環境作りが必要であると感じた。